

『新しい学校』一九五三年五月（興文館）

■教育時評

カリキュラム

行政の貧困



ような意見も出ているが、現実の社会科はそういう意見が出てもやむを得ない様なたらくであることは、社会科のシンパでも認めている。だからこらで余程しつかりした方策を出して、万人を納得させてもらいたいものだが、噂の通りだとすると、これは喜んでいるのか、悲しんでいるのか。

社会科の低迷の責任は確かに一部分指導要領にあるのだから、その改訂ももとより大いに結構であるが、教育課程審議会というのは指導要領の検討委員会ではない筈であるから、教育課程の問題全体に亘って検討を加え、大局的な方策を出すべきものであろう。現場の社会科の混迷は、もちろん指導要領にも大きい責任はあるが、ただそのみではないであろう。社会科の根底にある社会科学一般というものに対する教師の認識不足とか、具体的に社会学習を行う場合の資料の不足だとか、社会学習の際、単元を中心とする所の地域社会の各分野の現状や、問題点などに対する教師の具体的な理解の不足、或はその協同研究体制の欠如等々多くのことが考えられる。そしてこれらのことは、これまで殆んど等閑に付せられていたのであって、何等具体的な措置は講ぜられて来なかった。

文部省の行ったことといえば指導要領をつくったことと、デモンストレーションを行ったこととであり、県の教育委員会の行ったことは、大部分がテープレコーダーの如く文部省の伝達講習を行ったこととであり、所によつては役に立たない電話帳の如き観念的指導計画案をつくつたに過ぎない。それ以外の教育課程の構成、運営に関するものは一切教師に委せられるのである。教師の自主性が認められて大変有がたいことだが、教師はせいぜい学校単位に協力すれば珍らしい方で、大抵は個々ばらばらの教師が、学校全学年、全教科の教育課程の構成から、各学年各教科の具体的計画、更に各時間の指導の教材の準備までしなければならぬ。地域的な協同などということは殆んどなかった。社会科は新しい教科でよくわからないから、若しこれだけのことをするとすると教師はお手あげである。社会科の混迷の原因がこういう所にあるとすると、今指導要領を改訂した程度では到底追いつかないという気がする。今までの如き指導要領の出しっぱなしなどということでは、現場は益々困惑するだけだろう。一度カリキュラム行政として何がなされねばならぬかを根本的に考えてもらいたいものである。それは何も文部省がすべて行うべきだ

教育課程審議会が社会科の問題を中心として答申案の検討を行っているそうである。この雑誌が出る頃には答申も行われて、何等か具体的な方策が明らかになるであろう。私はどういふ人達がどういふ方法でやっているのかよく知らないが、人の噂によると、せいぜい指導要領の改訂を答申する位で、大した変化はなさそうだという事である。噂であるからどの位信用していいかわからないが、一寸淋しいような気がする。早くもあの指導要領の伝統が出来てしまつて、白紙から出直すことが出来ないようになって来たのかと心配になる。

社会科に具合がわるい所があるのは万人が認めている。いわゆる逆コースといわれる

という前提で言っているのではない。

万々一そうではあるまいが、文部省はただ指導要領を出しておればよろしい、教育課程の問題は、その時々の方流に依じて指導要領を書きかえることだ、などということになつては大変である。今日は自由党的意見に動かされ、明日は改進黨的思い付きに振り廻されているということになりかねないのである。

社会科を防衛することは、教育の逆コース化を防衛することだという人がいるが、そうだからといって、若し従来の社会科シンパだけを語らつて、審議会を設け、それでお茶をにごすというような考え方があつたら近視眼的な態度である。こうなると教育は官僚とボスの私物化してしまうのである。

大体教育課程の改造がただ指導要領の改訂位で実現すると思つるのはおかしいのであつて、本当にそれを実現するのは現場の教師の実践以外にはない。ただそれが協同して行われ、研究が伴い、それが積み上げられて行くことが必要である。今年行くことは去年よりも何の点が進んでいるということが明らかに押えられて行くような実証的な研究と実践、しかもそれが組織的な協同によつてなされるべきものであろう。現場の教師の力こそ一切の根底である。そしてこのような積み上

げる実践と研究の体制をつくり、現在の実態が何であり、次に何がなされるべきかを検討し、新しい方向を発見して行くことが、カリキュラム行政の根幹でなくてはならぬ。

これは現場の側と行政当局の協力によつて、はじめてつくられる体制であらうが、現在のカリキュラム行政は、教育課程審議会の答申、指導要領の改訂、その伝達講習という線で終つていふような気がする。教育課程審議会は、まず自らの立つべき足場を固めても

(三・二五)

〈矢口 新〉